

研究主題 **豊かに生きる力の育成**
～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 題材名 「『なりたい自分』に近付こう」

2 題材の目標

「なりたい自分」について考え、具体的な行動目標と手立てを決めることができるようにする。

3 本題材の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）

中学年の基礎的汎用的能力（夢4）		よりよい生活を楽しむための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
人や社会と かかわる力  【人間関係形成・社会形成能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の気持ちを理解し、協力して取り組もうとする力 ・ 自分の生活を支えてくれている人がいることに気付く力 	①希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。		
自分を みつめる力  【自己理解・自己管理能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよいところを見付ける力 ・ よいと思うことを考え、すすんで取り組む力 		①希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を考えている。	
課題を やりぬく力  【課題対応能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもち、計画を立てて実行する力 ・ 自分の役割に責任をもってやり遂げる力 		②希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を考え実践している。	
次に つなげる力  【キャリアプランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の生活や学習を通して、働くことの楽しさを発見する力 ・ 学習と生活が将来の生き方に関係していることに気付く力 			①現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

※キャリア教育と関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

4 部会提案

(1) 児童の実態と題材観

3年生に進級したばかりの子どもたちで、担任や友達も変わり、期待と不安の入り混じる複雑な気持ちで学校生活を送っている児童も少なくない。

昨年度までは、低学年として、「キャリアの力で育てる基礎的・汎用的能力」を身に付けてきた。3年生となり、中学年バージョンの目標にレベルアップしている。

当番活動・係活動も少しずつ動き出し、自分の役割を意識しながら自覚と責任をもって取り組む場面が今後ますます増えていく。

本活動を通して、2年生の時の自分から、何か一つでも「Step up!」(学年スローガン)した「なりたい自分」像をもち、そこに近付くための目標や作戦を考え、それを互いに応援できるような温かな雰囲気を作りたい。1年後、子どもたちがワークシート(夢4ファイル)を振り返り、努力の軌跡が実感できるよう、一人一人の児童の今の思いに寄り添いながら、授業を進めたい。

(2) 中学年の目指す児童像

役割 (role)

自分の「すてき」を役割の中で生かせる子ども

(3) 目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】:「なりたい自分」をイメージしやすくするために</p> <p>○「がんばりポイント」の記入</p> <p>今の自分について考える時間に、自分のよいところとともに、「がんばりポイント」を記入する欄を設けた。「なりたい自分」をイメージする際、材料として自分の弱点に目を向ける児童もいるのではないかと考えたからである。一方で、弱点や課題にばかりこだわりすぎると、「なりたい自分」像がネガティブなものにもなり得る。自分のよさを存分に発揮しながら、なりたい自分に近付いていけるよう、バランスを取りながら声を掛けていく必要がある。</p> <p>○「南一のキャリア教育の宝」の提示</p> <p>1年間の学習や行事の見通しをもてるよう、一人一人にキャリアの年間計画を渡した。毎月、それを見て確認をしながら、教育活動に即した目標を立てられるようにする。そうすることで、より実現可能な目標を立てたり、夢4を発揮しやすくなったりすると考えたからである。必要があれば加筆も可とし、自分たちで「宝」を探していこうとする意欲を高めたい。</p>	<p>【夢4】</p>  
<p>【手だて2】:「夢4」を学級で豊かにするために</p> <p>○児童の言葉の板書</p> <p>児童が考えた作戦を、短い言葉でキーワードにして板書する。その際、夢4のどの力に当たるかを児童と話し合いながら、整理して板書したい。1つの言葉でも、多面的な見方をすることができるので、児童とのやり取りを大切にしながら進めていく。毎月の夢4キャリアタイムや、日々の学習や行事を通してキーワードを増やしていくことで、学級オリジナルの夢4シートが完成し、児童の心が耕されると考えた。</p>	<p>【夢4】</p> 

5 指導計画

	月 日	児童の活動	◆指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
本時	4月24日	「本時の活動」参照	「本時の活動」参照	<p>【知・技①】</p> <p>・働くことや学ぶことの意義を理解し、「なりたい自分」に近づくために「夢4」の伸長が欠かせないことを理解している。 (発言・学習カード)</p> <p>【思・判・表①】</p> <p>・自分の目指したい姿について考え、具体的な行動目標と手だてを考えている。 (発言・学習カード) </p>
事後	適宜	<p>○意思決定したためあてを意識して実践する。</p> <p>○実践したことについて振り返る。</p>	<p>◆一人一人のワークシートを夢4ファイルにとじ、実践への意欲付けとなるようにする。</p> <p>◆児童の「なりたい自分」を教師が把握し、適宜価値付ける。</p>	<p>【思・判・表②】</p> <p>・意思決定したことを実践している。 (発言・学習カード) </p> <p>【主①】</p> <p>・自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。 (発言・学習カード) </p>

※波線はキャリア教育の視点

6 本時の学習（1時間扱いの1時間目）

(1) 本時の目標

「なりたい自分」に近付くために「夢4」の伸長が欠かせないことを理解し、「なりたい自分」について考え、具体的な行動目標と手だてを決めることができるようにする。

(2) キャリア教育の重点

◎今の自分について多面的に振り返る活動を通して、自分のよいところを見付ける力を育む。

【自己理解・自己管理能力】

(3) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分	1 本時の課題を知る。	・パワーポイント 【全体】	●働くことや学ぶことの意義を理解し、「なりたい自分」に近付くために「夢4」の伸長が欠かせないことを理解している。 【知・技①】  ○「なりたい自分」(目標)をもち、それに自分の力で近付こうとすることが大切であることを理解させる。
展開 35分	今の自分について知り、「なりたい自分」を目指すための作戦を考えよう		
	2 今の自分について振り返る。 3 今年度の「なりたい自分」を決める。	・ワークシート 【個人】	○今の自分について振り返り、ワークシート上段を記入する際、「がんばりたいところ」(課題)にも目を向けられるよう声を掛ける。 
	4 「南一の宝」を見ながら、1年間の学習内容や行事について見通しをもち、今年度の「なりたい自分」に近付くために、4・5月はどんなことに頑張りたいか(目標)を決め、そのための手立て(作戦)を決める。 5 キャリア教育で身に付けていく基礎的・汎用的能力について確認し、自分の手立てがどの能力に当てはまるかを考える。	・南一のキャリアの宝 【個人】 【全体】	○記入後、複数人発表させ、児童とのやり取りを大切にしながらアイコン表に分類していく。  ●自分の目指したい姿について考え、具体的な行動目標と手だてを考えている。【思・判・表①】 
まとめ 5分	6 立てた作戦への意欲を高める。		○今後は、行事や学習を通して、基礎的汎用的能力についても意識することを伝え、自分の目標に向かって意欲をもって頑張れるよう全体指導する。 

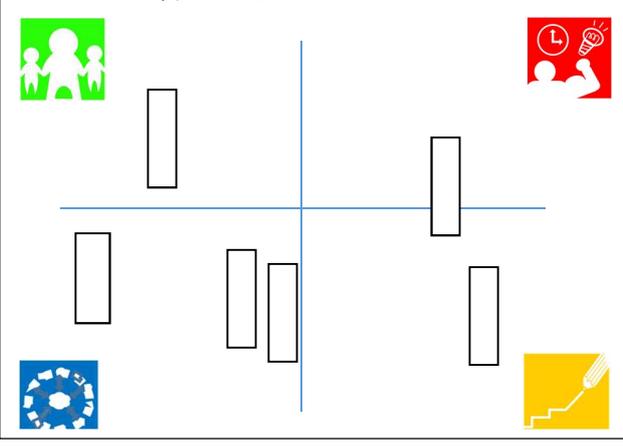
※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

「なりたい自分」に近付こう

めあて 今の自分について知り、「なりたい自分」をめざすための作戦を考えよう。

なりたい自分になるために



スライド資料

7 実践を終えて

成果

- ・本授業は、キャリア教育「耕しの授業」として、1年生以外の全学年・全学級で行った。全校共通の学習スライドを作成したことで、南一小的のキャリア教育のねらいを全校で共有することができた。また、ワークシートに学年末の「なりたい自分」を明記させ、ゴールイメージをもたせた上で毎月の目標を設定させることができた。年間計画「南一のキャリア教育の宝」は、児童にも配布することで、その月の主な行事や学習の確認ができ、児童がより学校生活に即した目標を立てるための有効な材料となった。授業の最後に、各月の「なりたい自分」になるための手だてが、「夢4」のどの力につながるかを考えさせた。児童から出た言葉を短くキーワード化することで、今後の学習や行事において、学級全体で共有する「基礎的・汎用的能力」として、日常生活で活用できるようになった。
- ・「耕しの授業」を土台とした毎月の目標設定と振り返りで、児童は自分を見つめる機会が増え、「自己理解・自己管理能力」が深まり、自分の成長を感じることができた。また、教員側が、児童一人一人の思いや考えを知るよい機会となったり、児童理解が深まったりした。

課題

- ・学年末の「なりたい自分」に近付くための目標設定を毎月行っているが、直接的なつながりが見えにくい児童がいる。しかし、今現在の自分が必要である目標を具体的にもつことは、児童にとって現実的なものであり、取り組みやすい目標となる。その目標を達成することは、総合的に考えると児童の基礎的・汎用的能力の向上につながると考えたい。
- ・毎月の「なりたい自分」の内容を、家庭や習い事に限定する児童がいる。そのため、学校生活での目標設定がなく、支援がしにくい場合がある。しかし、本来は、児童の将来のためのキャリア教育であるので、これも児童が納得する目標であれば良いと捉え、励まし、価値付けていきたい。